子ども会（学習会）だより
MY SKY No. 5
マイ・スカイ
1997年5月20日火曜日発行（毎週火曜日きまぐれ発行）

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責：吉成正士

「Be Ecologic!～地球に優しくなろう～」というパンフレットは，学級で配られたでしょうか？柿原先生からの紙リサイクルの呼びかけですね。

以前から言ってるように，これからは地球的規模で「人権・環境」がより一層叫ばれるようになっていくと思います。そのうえ日本では「福祉」も切り離せない大きな問題となってきています。これからを生きるみなさんは，これらの問題をどの程度真剣に捉えているでしょうか？

MY SKYでは，主に部落問題を中心にして人権問題を考えているわけですが，環境問題も切り離して考えるわけにはいかないと思っています。特にゴミの問題については深刻で，この板野町においても，ゴミ終末処理場は知る人ぞ知る大問題でもあります。

緑豊かな板野町。特に自然の姿がまだまだ残っている大坂。ここに，板野町のゴミ終末処理場があります。簡単に言えば，「巨大ゴミ捨て場」です。全国的に言えることですが，この「巨大ゴミ捨て場」は多くの場合が，人間があまりいなくて人目につきにくい自然環境に設けられています。私はあの自然いっぱいの大坂にゴミ捨て場を見たとき，ぼう然としました。「何でこんなところに！」いつの時代も人間は勝手で，汚い物にはフタをしたり，遠くに持っていったりします。それで解決するわけでないのにね。

全国各地で環境について問題になっていますが，是非ともこれからの日本・地球のことを考え，自分にできることを共にやっていきませんか！

ちなみに，お暇な方は是非とも大坂に立ち寄ってみてください。実感わきますよ！

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 第1学年第1回全体学習（5月15日；資料「学習会の仲間に」）

先週，今年度初めての全体学習が行われました。本音の部分が飛び出し，なかなか熱気ある時間にすることができました。初めて中学校で全体学習を行った1年生のみなさんは，いったいどんな感想を持ったでしょうか？また，初めてごらんになった先生方はどんな感想を持ったでしょうか？私自身が感じたことを列記してみますので，生徒のみなさんも，先生のみなさんも，ともに考えてみてください。

・部落外の子の中に，学習会に行きたいと思っている子がいるのはなぜでしょうか？
・部落の子の中に，学習会に行きたくないと思っている子がいるのはなぜでしょうか？
・「同じようになっているから，もう学習会はいらないのでは？」という発言がありましたが，本当に「同じように」なっているのでしょうか？
・「私は部落の人間ではありませんが‥‥」と発言していた子が何人もいましたが，果たしてその証拠はどこにあるのでしょうか？
・「学習会は勉強についてこれない子が行くところと思ってた」という発言がありましたが，本当なのでしょうか？何故そう思ってたのでしょうか？

全体学習が始まった当初，テクニックとか方法なんてまるでありませんでした。ただ，「真剣にこの問題に取り組むんだ！」「差別が許せないんだ！」「目の前にいる生徒を部落差別にあわせてたまるか！」という情熱だけでやっていたような気がします。その情熱が，座ってる生徒の中に私たち教師を座らせていました。

全体授業の時には身近なクラスの中に入り，発言したそうにモジモジしてる子に，押し殺したような小声で「がんばろう！」と働きかけたり，発言しやすいように授業内容について小声で話し合ったりしていました。教師側にその真剣さがありましたから，生徒の方にも「聞く姿勢」と「話す姿勢」が自然に身についたと思います。

ただし，全体学習の時だけの働きかけや「聞く姿勢」「話す姿勢」ではダメでした。これは生徒と教師の間でも，また生徒間でも，教師間でも同じことですが，常日頃の話し合いや働きかけがなければ，いくら打っても響くことはありませんでした。

ある年私は，生徒に発表する習慣をつけさそうと思い，「全体授業で１０人以上発表したら，全員にジュースをおごる」という約束をしてしまいました。すると，なんと１１人発表してしまったのです。すぐ後の学活で，種類の違うジュースを取っていく順番を自分たちで決めて，飲みました。

その次の年の第１回の全体学習の時も，同じことをしてみました。けどこのときは，「先生，ジュースをもらうために発表するのはおかしい。発表ってそんなもんじゃない!」と生徒に叱られました。その通りだと思いました。でも，それをきっかけにして発表できるようになった子が出てきたのは確かでした。みなさんはどう思いますか？

この日，６時間目になると，何も見ずに宙で発表できる子がたくさん出てきましたね。普通のことなのかもしれませんが，やっぱりすごいと思います。

・障害者問題についても勉強していきたい。

・こうやって学習していても，遊んでいる子がいる！

・学習会に行っている人をカバーしていきたい。

・学習会に行く人，行かない人に分けるのはおかしい。学習会が差別を生んでいる。みんなでやるべき。

・姉の訴えに心が揺れた。自分も真剣にがんばっていきたい。

他にも「地球上から差別はなくならないと思う」と発表してくれた人もいました。

人類が誕生し，「自分のもの」という考えができるとともに，差別は生まれたと思います。それ以来人類は，差別と反差別の闘いの歴史を繰り返してきました。さてみなさんは，どちらの立場に立ちますか？もし反差別の人間がいなくなれば，世の中はいったいどうなるでしょうか‥‥。

「障害者差別についても考えていきたい」と発表してくれた人もいましたが，それはそれでいいでしょう。つまりは，みんなが反差別の集団となっていくことが大切なんだと思います。いろんな差別がありますが，それらの差別をなくそうとする集団が，互いに協力しあうことが，本当に大切なんだと思います。そのためには，まず一番身近な集団である家族や学級で，どれだけ思っていることを伝えられる関係ができているかだと思います。それを，生徒のみなさんも，我々教師も，日頃から意識して取り組んでいけば，ずいぶん違った集団になると思いますよ。伝える方法の中で手を挙げて発表することは大切で，「挙げれる，挙げれない」は「慣れ」もおおいに関係してると思います。日頃の教科の授業で，学活で，部落問題学習の時間で手を挙げることをやっていけば，全然変わってくると思いますよ。「最近の中学生は発表なんかしない」というのは，おそらく教師の言い訳でしょうね。すべての人が発表できるとはいいませんが，発表できる子までもできなくさせてるのは，事実だと思います。我々教師もしっかりしましょう！

それと，それぞれの家庭でもしっかり話する機会を持つことです。「教師や親の考え＝自分の考え」となってしまう危険性はありますが，お互いがお互いの生き方を見つめることは，やはり大切です。

硬いイスに２時間「じっと我慢の子であった」では，やっぱりしんどいですよね。いろんな場面で常に「手を挙げよう」「しっかり聴こう」とドキドキ緊張してれば，時間はアッという間に過ぎていくはずです。同じ時間過ごすなら，「他人の主張を聴く貴重な場」「自分の主張をする訓練の場」と考え，有意義に過ごしてみませんか！！

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

♪♯ ひとり・ごメッ ♪♭

今回は全体学習を記事にしましたが，先週は他に学習会保護者会もありました。次回はあの充実した保護者会の内容も記事にしたいと思います。お楽しみに！

みなさんにとっても，充実した毎日になっていることと思いますが，季節の変わり目，体調には十分気をつけてくださいね。

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆☆ ★★★ ☆☆ ★

5月23日(金)　板野中学校体育祭
28日(水)　中間テスト
29日(木)　3年C組学年全体学習(第3学年第1回資料「ある日の生活ノートより」)
2日(月)・3日(火)　1年生宿泊訓練

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 二度とない人生だから(和田武広講演会より)

昨年MY SKYに掲載した和田武広さんの講演会のテープが，私の手元に届けられました。1年生のみなさんにはしてみれば，「誰それ？」って感じですかね。

和田武広さんは愛媛県の方で，結婚のとき部落差別に出会いました。そのときの思いや葛藤を本にまとめたのが，「はじけた家族」です。詳しいことは，今回から連載する講演会記録を読んでみてください。

なお，この講演会を行ったときの資料を，次に記しておきます。

いわゆる「世間」と闘って

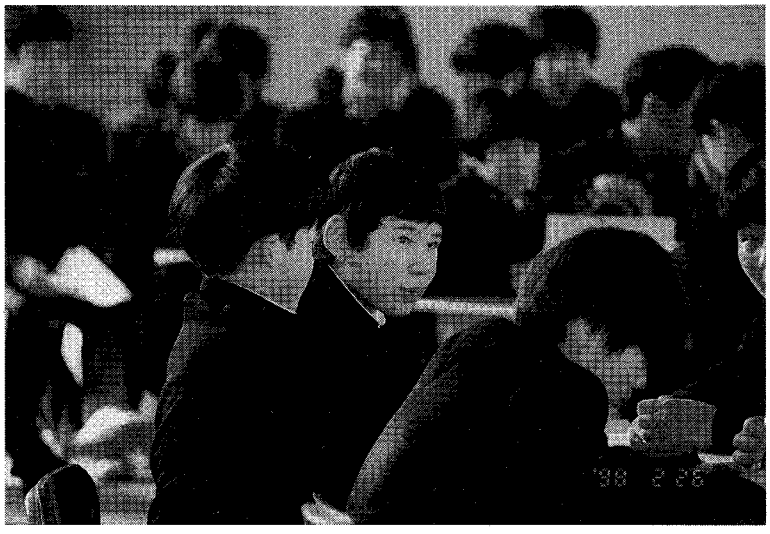
「差別はいけない，しかし世間はそんなに甘くはない，世間が悪いから仕方ないんだ」私たち二人の結婚に対して，私の家族が終始一貫して主張したいわゆる差別の論理である。

自らの差別行為を「世間」という実体なきものに見事に責任転嫁することによって自らの行為を正当化しようとするものである。そしてこの論理がさらに発展すると，自分たちは差別などしたくはないのだが，そうしないと「世間」から迫害を受ける。自分たちこそ，部落差別の被害者である。したがって，そのような現実を招いた私と彼女こそが加害者なんだ，という恐るべき論理へと飛躍をしてくる。

こうした論理が全く本末転倒であることはいうまでもない。その「世間」とは誰でもない，自分自身なのだから‥‥．ところがそんな誤った論理が大手を振ってまかり通るところに部落問題の深刻さがあるのだと思う。かくいう私もまた，一度はその誤りを犯した一人である。

幸いにも私は，早期にその誤りに気がつき，人として生きる道を踏み外さずに済んだが，残念ながら私の家族らは未だその誤りから脱却しえないでいる。私は，それがたとえ茨の道であろうとも，一日も早く私の家族の誤りを正し，人が人を信じ合い，いたわり合う真の人間尊重の道を歩ませるのが，私の肉親としての務めであり，今後私の歩むべき道であると信じて疑わないものであります。　　和田　武広

第１学年第４回全体学習（６校時）（98. 2. 5）



第１学年第５回全体学習（５校時）（98. 2. 26）

和田武広講演会　記録
『二度とない人生だから①』

みなさんこんにちは、ただ今校長先生からご紹介いただきました、菊間町の和田です。

私は昭和28年生まれと紹介がありましたように、おそらくみなさん方のお父さんとかお母さんと同じくらいの年代だと思います。といいますのも、3人ほど子どもがおりまして、長男がみなさん方と同じ高校1年生でございます。あと長女と二男が小学校6年生と4年生におりまして、3人の子どもを持つ、普通のサラリーマンでございます。

そういうなかでですね、今日45分という大変貴重な時間を与えられております。この時間のなかで、先ほど校長先生からお話もございましたように、何かの難しい考え方を私が紹介するとか、あるいは理論を言うとかではなく、私自身の、普通のサラリーマンでみなさん方のお父さんやお母さんと同じ年代の人間が体験したことを通じて、みなさん方に二つのことを考えてほしいと考えております。

まず第一点目です。

部落差別というのはみなさん勉強されてると思いますが、この部落差別などいろんな差別をなくそうということで、学校の中でも同和教育の授業とかいろんな取り組みをされてますね。なぜそういう取り組みをしなければならないのか。

それを考える時に、今差別があるのかないのかということを、まず自分ではっきり知って確認しておかないと、「また同和教育の授業。面白くないな。俺には関係ないよ…」ということになるんじゃないかと思います。もし今部落差別というものがないのであれば、同和教育の授業も必要ないと思います。またもしあったとしても、「遠い昔の話で、今はもうほとんどそんなもの関係ないよ」という時代であれば、これも必要ないと思います。「今あったとしても、新居浜、あるいは愛媛県では全然ないよ。どこか遠い国の話だ」ということであっても、関係ないと思いますね。今、ここで差別というものが生きているんだということをみなさん方に知っていただきたいと思い、私は自分自身の体験をいろんな方にお話し、差別の現実というものを知っていただきたいということで、こういう所でお話をしたり、あるいは本を書いたり、あるいはいろんなマスコミ等にも、いわば語り部として活動していくのが自分なりの使命だというふうに考えております。

みなさん方もテレビでよくご存じだと思います。今エイズ問題というものが、非常に大きなニュースで取り上げられるようになりました。

菅前厚生大臣が非常に脚光を浴びたということもございますが、国政の中でも、何故この1年間、エイズ問題があれだけ盛り上がったのか。国民の関心事として、多くの人たちが「この問題はひどいじゃないか。何とかしなくちゃいけないじゃないか。政府よ、しっかりしろ」というふうになったのは、あの川田龍平さんという、まだ大学生の若い彼、あるいはその川田さんに続く多くの若いエイズに感染した人たちが、周りの非常に厳しい偏見、差別を乗り越えて、自ら顔を出し、名前を出し「こういう実態があるんです。皆さんどうしてくれるんですか」と訴えたからではないでしょうか。私も川田さんに会って話を聞いたときに、胸にグサッと突き刺さる思いがしました。

このように、この現実というものを語る人、喋る人、少なくともその人が喋っていることは、ご本人が言ってるから本当のことなんですね。確かにそういうふうな実態ばかりじゃなく、良いこともあるでしょう。

部落差別においても、部落差別を乗り越えて幸せに結婚した、あるいは反対もされずに幸せになった人もいっぱいいると思いますが、またそれと同じくらい、厳しい差別の中で苦しんでいる人、引き裂かれた人もいっぱいいるわけです。

私には、川田さんみたいな勇気はほとんどございませんが、自分なりの体験を通じて、多くの方々にその現実も知っていただいて、「部落差別というものが今あるんだ。これをなんとか皆さんにも考えてほしい」という思いで、今日はお話をしたいと思います。

次に二点目です。

部落差別の現実がわかったとします。おそらくみなさん方もそうだと思いますし、私自身もそうでしたが、「僕は部落差別なんかしない。差別するような、そんな愚かな人間じゃない。だから部落差別なんか関係ないよ」と思ってる方も多いんじゃないかと思います。確かに差別をしないことは大変素晴らしいことです。しかし、本当に自分に関係のないことなのか。部落差別の問題は、他人事なのか。それとも自分自身がこれから生きていく上で、みなさん方が大人になっていく上で、本当に自分の問題として考えなくちゃいけない問題なのか。その点を考えていただきたいと思っております。

つづく